

カワイ博士。一九二八(昭和三)年六月三日出生。一九六二(昭和三七)年から六五(昭和四〇)年にかけてユング研究所に留学して、ユング派分析家の資格を習得。心の国のユング派の第一人者として、臨床心理学をはじめ多くの業績を残し、心の国にユング派の土台をつくれ、後に文化庁長官を務められました。

ナビ大王から報告を受けたつる姫は、ただちに京都大学にいのち舟を下降させて、敬愛の祝福を送ることにしました。ユングの精神を受け継ぎ、共時性の持つ本質と心の働き、いのちの持つ根源的普遍性にも強い関心を当ててきたカワイ博士に敬愛の祝福光を三回点滅させてその労をねぎらうと、いのち舟は静かに上昇を始めました。

次に目指すは東京です。あらかじめつる姫の命を受けていたナビ大王は、一路富士山に進路をとって進んでいきます。

いのち舟は誰にも見えない万物普遍の生命エネルギーであり、そこに本質を置く共時性現象は運命の「であい草」の姿であること、そして、心は物質で物質が心であるという、一元の世界から生まれた融合一体の相対的現象がいのちであつたことに、ユングは一人うなずいていました。

何かが動けば何かが動く。作用あれば反作用が起こる、それはまた『火と水』の心ともいえます。燃え上がるとうとする火の心と水平を保とうとする水の心です。縦と横、すなわち十字の世界がいのちの世界だとユングは考えているのではないか、そう思ったつる姫は、

つる姫「ユングさん

天の川には、天意の法則があつて、その中の一つに『火と水の法則』があります  
宇宙の調和安定の土台にもなっています」

つる姫がユングに語りかけている頃、いのち舟は富士山上空を

通過して東京の街に入りました。下界の様子を見たつる姫は驚いて、

つる姫「この街はであい草のジャングルです。なんとということでしょう」と、絶句しました。

であい草は別名「心のつる草」ともいいますから、ごちゃごちゃ絡み合っているのは当然でしょうが、それにしても想像をはるかに越えていました。押し合いへしあいして絡み合っています。花の色だって万人万色です。強弱、濃淡の点滅合戦です。ここは心のジャングルです。思いのジャングルです。

これほどのであい草のジャングルでも、三心三蔵のクルーたちは、そのジャングルの

中から素早く、文字・数・色の魂のひびきを捕らえ、そのメッセージをつる姫に報告するようになっています。

いのち舟が都内の中くらいまで来たとき、

ナビ大王「つる姫様、タマヒロ社長です。出版社の上空に到着しました」

つる姫「ナビ大王、下降を始めてください。そして、敬愛の栄光を点滅してください」

つる姫の命をうけたナビ大王は、いのち舟の黄金の光を三回点滅発光させました。ナビ画像には、タマヒロ社長の紹介が出ています。

タマヒロ社長。一九一五（大正四）年出生。東京大学卒業。父親は大豆等穀物取引の大商人。戦後、実業と宗教遍歴を重ね、精神世界の探求を続け、昭和四四（一九六九）年、出版社を設立し、精神世界を専門とする出版業務の草分けといわれる第一人者。

さらに、新しい時代に向けた新しい物の考え方として、ビジネスという「もの」と精神世界という「心」を包含統合した共時性と生命の本質に根差す理念を提唱し、ホロニック・マインドクラブを設立。初年度の年間テーマは、ユングの「共時性の発見」。

これこそ、ユングの探求した共時性の世界を宇宙生命エネルギーまで掘り下げて、精神世界とビジネスの融合をはかり、新しい時代に向けてビジネスマンの意識覚醒を重視

した取組みの活動でした。

以上のようにつる姫に報告したナビ大王は、生命コンピュータをフル活動させるために、すべての機能を点灯させています。文字・数・色の心の蔵を担当する三クルーにも、三心情報収集のスタンバイを命じました。三クルーのアンテナは全開しました。ナビ大王はいのち舟のエネルギーを上げています。

つる姫は中央で、縁結びの迅速対応と総合判断に万全を整えました。

心の国の心の大地には、दैあい草（心のつる草）が一本一本それぞれの花を咲かせています。人々の心の蔵で育ったदैあい草は、その人の人生を導く道明かりとなる大切な心のつる草なのです。

दैあい草から発する心の光は、その人の魂の総合磁力であり、その磁力は、複合立体になって絡み合いながら、押し合い引き合いして縁を結んでいきます。

いのちは原子です。原子は食です。食に発する原子です。一人一人の心の中では原子が舞っているのです。

いのちの舞い

やまず

やすまず

とどまらず

とんでははねて

はねてはとんで

あつちへこつちへ

ランダムに

信号なけれど

赤・青・黄色

安心安全

原子の舞いは

いのちの喜び

大調和

いのちの原子  
大調和

であい草

ゼロの力がいのちの力

いつも引き寄せ引き離す

枠を超えれば引き戻す

これが人生泣き笑い

今日の心はお蔵入り

文字・数・色のお蔵入り

心の大地で草となり

心をつる草であい草

つる姫は、三心クルーから送られてくる情報をナビ画像に映し出してじっと見ています。

心の大地から生えている心のつる草は、その人の生きざまから発生する魂のすべてを浮き上げて、その全量を量的エネルギーに換算していきます。そして、一人ひとりの心の総合磁力をはじきだしていくのです。それはもう一瞬です。キーを打てばすぐにその人の総合磁力がはじきだされます。

人類誕生以前からの魂の全量が量的エネルギーに換算されて、それが総合磁力となつてナビ画像に映し出されていきます。リアルタイムで一人ひとりの心の動き、つまりつる草の動向を知ることができます。

天の川では、「天意の法則」に「心の総合磁力」というのがあつて、縁結びに絶大な力を発揮しています。電磁波の光を放射しながら、一人ひとりが自分の心の生き場を探し当てる力となつて、吸引吸着、反動反発しながら、結ぶべき相手を探し求めているのです。その姿こそ、心の大地に生えているであらう草の姿なのです。

その心の生き様情報が、三心クルーから、つる姫に届けられました。

情報内容は、タマヒロ社長の動きでした。それは、スピリチュアル・ツアーの情報でした。

平成四（一九九二）年七月二日から二七日までの四日間。隣国のソウル市行き募集をしたところ、一〇名が決定。内訳は、東北（酒田）一名、千葉一名、東京三名、横浜一名、広島四名、同行者二名、計一二名の小団体。

つる姫は一二名の名簿を見ていましたが、その中で特に目を引いたのは東北と広島でした。三心クルーに、その詳細データをモニターに映し出すよう指示を出します。

つる姫「あら、広島のオサダ姫さん！

あら、東北の田之助さん！

あらら、同系同系の磁力光です！」

両者が共振共鳴し、その磁力光が激しく点滅を続けているのをじっと見ていたつる姫は、

つる姫「ナビ大王

すぐに「緑エネルギー光」をセットしてください

オサダ姫と田之助を緑エネルギー光に乗せて

それぞれを広島と東北の酒田に向けて発信してください」

つる姫の命を受けたナビ大王は、ただちに縁エネルギーを仕立てて、広島には田之助の魂を乗せ、東北（酒田）にはオサダ姫の魂を乗せて発信させました。地上現界では、オサダ姫は小田女史、田之助は菅原という現実名になっています。

そして、両名に縁エネルギーが届いたとき、モニターの激しい点滅は消えています。魂の着信が終わったのです。両名は、これから先お互いに、いの中の中で生き続けていきます。

つる姫は、この縁結びについてのあるビジョンを見ていました。心のゆらめきであり草からもその予兆は受け取れていましたが、タマヒロ社長のソウル・ツアーを終えてから、その予兆のビジョンがより鮮明になったようです。

つる姫は、モニターにもう一度、タマヒロ社長の心のつる草を映し出してみました。つる姫「やはりそうだったのか！」

つる姫は、ビジョンとオーバーラップしていたことが真実であることを突きとめたのです。

タマヒロ社長は、出版業を始める前に、紙卸業のかたわら一時期某教団に係わり、その後、岡本天明のところに出入りを始めていました。そのころ天明は、「数字と記号」

による自動書記を続けていたのです。

ここでつる姫は、三心クルーに岡本天明の詳細データを入力するよう命じました。

モニターのデータをつぶさに見つめていたつる姫は、タマヒロ社長と天明のある接点に注目しました。タマヒロ社長は地上の現実で、天明は内なる魂の世界で、互いに交流し、複合立体的に、同時進行形で、うねりを上げていることをつる姫は察知したのでした。

タマヒロ社長側では、ソウル・ツアーのメンバーが中心軸となつて、大きな転換点を迎えていたのです。その縁エネルギーが、東北（酒田）と広島に立ち上がっています。運命的縁結びを担当するのが、つる姫の特命大使としての任務です。つる姫のビジョンにはそれが出来ていたのです。

片や天明側では、タマヒロ社長とのアクセスによる魂の広がりが発化していることを察知したつる姫は、新たな縁結びの段階に来ていることを知ったのです。そこでつる姫は、天明のデータに目を転じてみました。

岡本天明。一八九七（明治三〇）年二月四日、岡山県『倉敷市玉島』で大地主の家に出生。一九一四（大正三）年神戸に移住、一七歳で絵画個展を開く。青壮年期の大半を新聞記者生活。その後、東京千駄ヶ谷八幡で神主代行となる。

一九四四（昭和一九）年六月一〇日、四七歳のとき、『数字と記号』で綴る神示を取り次ぐ「自動書記」が始まる。一九五五（昭和三〇）年、三重県菰野町の鈴鹿山脈の麓に移住。一九六一（昭和三六）年、一六年間にわたる神示取り次ぎの自動書記を終了。その後亡くなるまでの二年間は画家としての活躍に身を挺して、一九六三（昭和三八）年四月七日、六五歳四カ月の生涯を終える。

以上のデータを見ていたつる姫は、タマヒロ社長と天明、それに、東北（酒田）と広島が、一気にライン・アップされていることを知り、再び三心クルーに、東北（酒田）の田之助と広島のおサダ姫について詳細データをモニターに入力するように命じました。はじめに田之助のデータが入ってきました。それを見たつる姫は、

つる姫「これはなんと凄い！ 心の国にかつてないほどの生きたまです！」

つる姫は、前代未聞の、酒乱から脱した夫と妻の人生に息を呑みました。

つる姫「田之助の妻は、いろいろは姫”です

数字と文字が日々の中で心の中に結ばれてくると言っています

心の国にいて、いろいろは姫は鉄の一心で生きています！」

つる姫が歓喜にも似た言葉を発して目の前のナビ画像に目をやると、今度は天明ので

あい草がずんずんと伸び出してきて、磁力の光はいよいよ輝きを増しています。

つる姫には、それがどういふことかすぐにわかりました。数字と記号の神示を取り次いだ岡本天明と、片や、田之助の妻、いろいろは姫は数字と文字を心結びしている現実があります。

東北（酒田）のつる草と菰野（三重県）のつる草が、同時に激しく揺れだしてました。そして、であい草の磁力光が点滅を始めています。

つる姫「ナビ大王

縁エネルギー光をセットしてください

用意できたら

東北のいろは姫と菰野の天明を交互に乗せて

田之助とおサダ姫のときのように発信してください」

ナビ大王は用意万端承知一番で、素早くつる姫の指示を実行しました。いろいろは姫の魂を菰野（三重県）の天明へ、天明の魂を東北（酒田）のいろは姫へと、縁エネルギー光に乗せて無事発信したのです。

これら心の国の縁結びは現界では未だ知らず…。

ナビ大王「つる姫さま、ただ今、万事終了しました」

と、ナビ大王が報告すると、つる姫はモニターに目をやりました。激しく磁力光を点滅していたであい草の明かりは消えていました。無事着信したようです。

それ以来、いろは姫と天明のいのちの交信は、内なる心の世界で生きて通うことになったのです。心の国の縁結びは佳境に入ってきました。つる姫の視界には一つの頂点が見えはじめてきたようです。

このとき、時空の流れがぴたりと停止したかと思うと、鈴の音とともにエコーの効いた声が鳴り響きました。

天の声「つる姫よ、つる姫

天明なるものをいのち舟に乗船させよ

ただちに乗船させるのだ」

と言い終わると、天の声はぴたりと消えました。そして時空の流れが再び動きだしたのです。

以後天明はいのち舟の客人となりました。ユングの隣に席をとった天明は、湧き上がる懐かしさで全霊が歓喜に包まれていました。ユングもまた、乗船以来つる姫の側で一

切の流れを受け止めていたので、チューリッヒ湖のボーリンゲンの塔の時代よりもさらにシンプルな、いのちの中心世界に全霊を任せていたのでした。

ユングは、共時性現象の根底に布置されている根源的中心エネルギーとは、精神世界も物質世界も、分離あらゆる世界、すなわち、一元で一体であり、二象体を持つ融合一体の存在、不分離の分離という、分けることのできない一体性の世界なのだと思いつめていたように見えました。行き着くところは、心と物質は元は一つということ、その中心を一本道で流れているエネルギーは、「宇宙絶対調和力」という「一大調和ご意志」というものではないのかと、考えているようでもありました。

ユングは、スイス時代にノーベル賞物理学者のヴォルフガング・パウリとの共同研究でも、共時性現象の究極の到達点は心も物質も消えている世界なのではないかと考えていたようでした。物理学理論は、すべて「数字と記号」でその算式が成り立っていて、宇宙の安定調和力は、量的（数的）バランスエネルギーの上に成り立っているといえます。その点で、天明の自動書記がすべて数字と記号でつづられていることが、ユングにとって最大の関心事であったのです。そばにいた天明は、ユングの波動に頷いていきます。

いのち舟に天明が乗船したことで、つる姫はユングの思いを受け止めながら、東北（酒

田)のいろは姫に思いを寄せていました。

いろは姫は一介の主婦ですが、現実生活の中で、数字と文字の世界にアクセスしています。難しい学問世界はわかりませんが、ただ一つ、鉄の一心を持っています。数字と文字を心いいただくことのある暮らしの中で、一切不動の鉄の一心を心がけています。そして、共時性現象を

“食心の目は共時の目”

という、次元ばなれした言葉で表しています。食こそいのちの根源であり、一旦口から入った食べ物、人間の自我が立ち入ることのできないいのちの世界。それこそ、ご意志の世界、それをいろは姫は「五二四」の世界と書き換えています。「ご意志」と書けば、人間の自我が入る世界ですから、それを数字の「五一四」と表現することは、宇宙に通じる意志といえましょうか。

“食なくてなんのおのれがこの世かな”

生き物は食べなくては生きていられません。あまりにも当然すぎる当然のことです。しかし、そこにこそタネ証しの謎があることに人はなかなか気づきません。知性で栄えて知性で滅びては、人間の特性は宝の持ち腐れになります。生きることの次元にこそ、

共時性現象（通称Ⅱ偶然の一致）の謎解きがあったのです。

いのちは原子です。原子は食です。食に発する原子です。生きることの原子が、全身の中で舞っているから今日も生きていきます。あまりにも当たり前のため、低次元として無視されているわけですが、そこにこそ共時性の目が光っていたわけです。

つる姫は、ユングと天明を前にして、天の川のことを話し出しました。  
つる姫「ユングさんと天明さんは立場は違っていますが

ともにいのちのルーツを求め、心のふる里を求めてきました

天の川には『天意の法則』がいくつもありません

その中に

“一呼一吸天の気

一食一排地の気

天地の気はいのちの食

食はいのちの呼吸なり”

というものがあります

また、“食心の目は共時の目”というものもあります



どちらも、食はいのち、いのちは食ということになりますが  
そこにこそ、宇宙調和のエネルギーの謎があるので  
そして、縁結びの中心エネルギーとなる

「共振共鳴共時の目」があつたのです

「目」とは、そのものの中心と考えたらよいでしょう

ここで再び「いのちの舞い」を出しましょう

やまず

やまず

とどまらず

とんでははねて

はねてはとんで

あっちへこっちへ

ランダムに

信号ないけど

赤・青・黄色

安心安全

原子の舞いは

いのちの喜び

大調和

いのちの原子

大調和

食からいただいた原子の世界は

私たちのいのちの中で

いつも引き寄せたり引き離したりして

枠を超えたら引き戻すゼロの力が働いたりして生きているわけです

共時性現象の本質はつまり

食心の目は共時の目

いのちと食は同義と解する

いろは姫の鉄の一心は

天の川の天意の法則にも当てはまっているのです」

と、ここまで話すとつる姫は、

つる姫「ユングさんと天明さんに面白い映像をお見せしましょう

これは、田之助というは姫の話です

二人は天の川から舟に帆を立てて下ってきました

天の川から心の国へ流れている支流は数多くありますが

二人が乗った舟は

東北の山形県に流れている支流を下ってきたのです

天の川の分岐点には立て札が立っていて

「サイジョウノカワ」(最上の川)とあります

ところが、しばらく下つてくると

ちょうど山形県内に入ったところから急に川の呼び名が変わりました

「モガミガワ」(最上川)となっているのです

二人は、どんどん下つてきて河口の酒田港に到着するのですが

その舟を見ますとまるで宝船のようです

舟一杯に稲穂が積まれていて帆には大きな文字で

「食、心の目は共時の目」と書かれてあって

下段一面には聞き慣れない祝詞のりとが書いてあります

変われども、時代変われど、いのちの光

米は変わらぬ永遠とわの糧かて

鶴千年亀万年、稲穂の実りは億万年

人類栄えの糧となる、米が光れば皆光る

おかげで今日も生かされる

ありがとう」

つる姫の話はここで止まりました。宝船にはその祝詞のりと文字が金文字で浮き立っていて、そればかりか、帆柱のてっぺんには長方形の旗が風にひらひら波打っています。その旗は、金色に彩られた「米」の写真でした。それを見た誰かが声を出しました。「あれはユングだ！」